

1. 研究主題

「自分の考え」をもち、伝え合う子の育成

～算数科の授業を通して～

2. 主題設定の理由

本校は、平成 19.20 年の 2 年間にわたり、「社会性・人間関係をはぐくむ教育推進事業」の実践協力校として、児童の人間関係づくりの実践に取り組んできた。その結果、異学年の活動では、楽しく遊んだり声かけしたりする姿が見られるようになり、学級でもお互いを認め合い、学びあう姿がみられるようになった。また、授業では、【学び合う場】を設定・充実させることにより、教科のねらいを達成しながら、人間関係づくりを進めていくことが可能であることが分かった。しかし、学校生活全般において、指示されたことはやり遂げようとするが、自分の考えを持ったり、主体的に取り組もうとする児童が少ない、という課題も挙げられた。そこで、昨年度は、「かかわり合い、自ら学ぶ子」を研究主題として、算数科を通して自分で課題を見つけ、自ら学び、考え、判断し行動する子どもたちの育成を目指して授業実践を行ってきた。その中で、課題提示の工夫により、子どもたちは意欲的に課題に向かうようになり、ワークシートの活用は、一人ひとりが自分の考えを持つ場を保障することになった。また、既習事項を教室内に掲示したり、ワークシート内に示したりすることで、自分の考えに自信を持てた子も多かった。しかし、考える時間を大切にすると、持てた考えを交流する時間が充分に取れないことも多く、主題の「かかわり合い」の部分で課題が残った。

そこで、本年度は、昨年度の研究を引き継ぎ、算数科の中で自分の考えを持てる子を育て、その考えを伝え合う子の育成を目指すこととした。本校が取り組んできた人間関係づくりの実践は、日々の教育活動全般で進められているものである。子どもたちにとって居心地のいい学級・人間関係の中で、互いの考えを認め合おうとする土台はできてきているので、更に一步進めて、考えを伝え合おうとする児童の育成を目指した授業実践を行っていききたい。算数科の「わかる」「できた」という達成感が持ちやすく、多様な課題解決の方法が持てるという特性を踏まえて、一人ひとりが学習に主体的に取り組む、伝え合うことが解決や理解につながるといふ喜びを全体で味わえる授業実践を行うことで、本校で目指す子ども像にせまると考え、副題とした。

3. 研究の仮説

児童の
実態

- ・ 素直で明るい。
- ・ 指示されたことはやり遂げようとするが、自分の考えを持ったり、主体的に取り組もうとする児童が少ない。
- ・ 自分の考えを伝えることに苦手意識を持つ児童が多い。

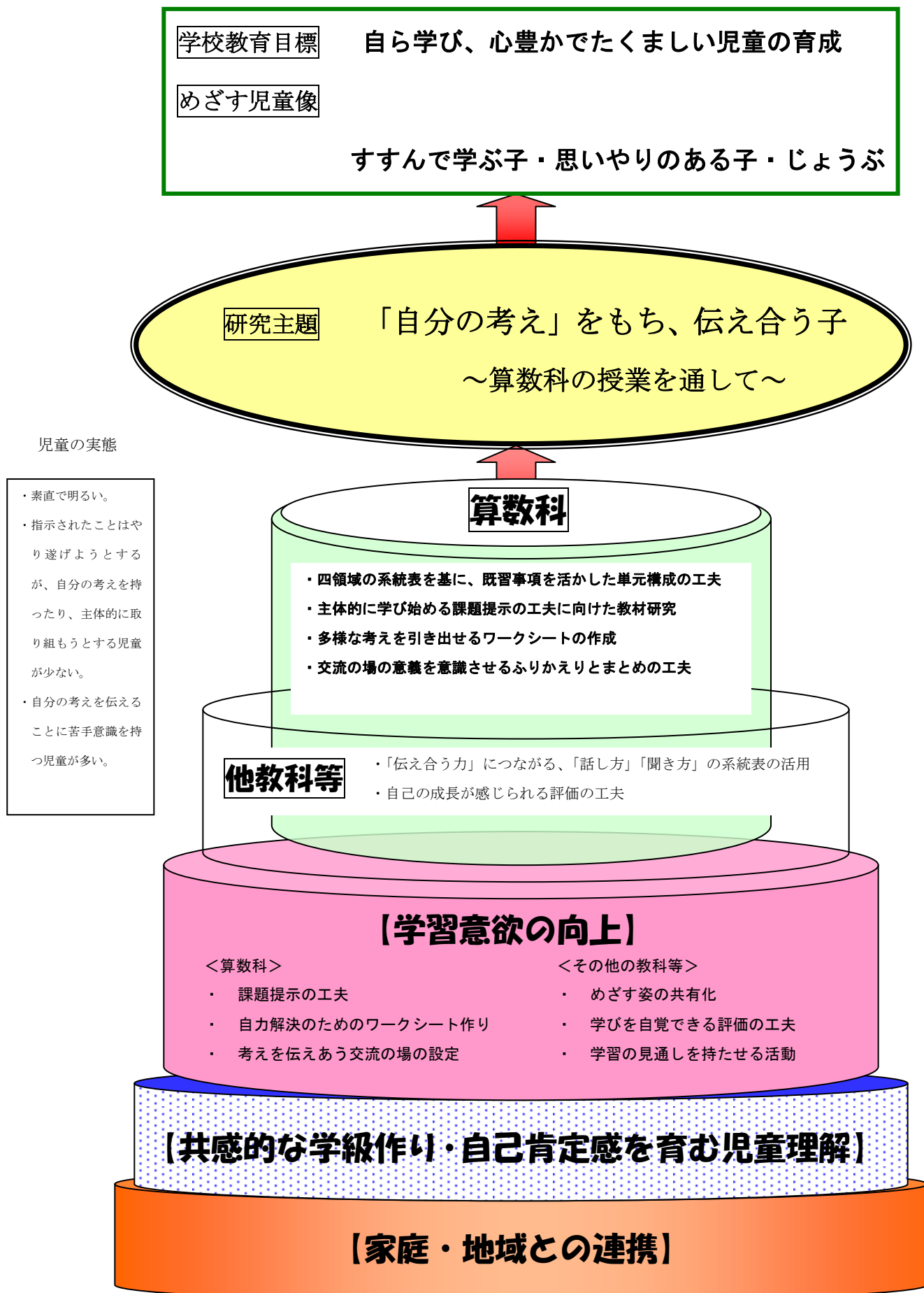
仮説

- ① 導入段階において、課題の提示を工夫し、子どもの興味・関心を高めることで、主体的に学習に取り組む児童を育てることができる。
- ② 自力解決の場面で、ワークシートなどの手立ての工夫により、主体的に学習を進め、自分の考えを持てる児童を育てることができる。
- ③ 集団解決の場面で、互いの考えを交流する場を設定することにより、多様な考えがあることに気づき、互いに伝え合おうとする児童をそだてることことができる。

めざす
児童

「自分の考え」をもち、伝え合う子

4. 研究の全体構想



5. 算数科の授業の流れ

	場の設定	児童の活動と意識の流れ	教師の手立て
導入	<p style="text-align: center;">課題提示</p> <p style="text-align: center;">↓</p>	<ul style="list-style-type: none"> 課題の理解 「おもしろそうだな。」 「考えてみたいな。」 既習の想起 「あの方法でやってみよう。」 「どうすればいいのかな。」 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学びたくなるような課題提示の工夫。 既習事項に触れることのできる教室掲示の準備。
展開	<p style="text-align: center;">自力解決</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">集団解決</p> <p style="text-align: center;">↓</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを書く。 「絵で書いてみよう。」 「式をたててみよう。」 「言葉で説明できるかな。」 自分の考えをまとめる。 「みんなの考えも知りたいな。」 考えを交流する。 「ぼくの考えに似てるな。」 「そんなやり方があったんだ。」 「こっちの方がやりやすい。」 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを表すための、絵や図、言葉・式などの手立てを紹介する。 個に応じた支援。 ペアやグループ、全体など、交流の形態の工夫。 一人ひとりの考えを大切にする。
まとめ	<p style="text-align: center;">まとめ</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">ふりかえり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決 「みんなで考えたら今日の課題が解決できたよ。」 ノートにまとめる 「こんなことが分かったよ。」 「友だちの考えを聞いて分かったよ。」 「自分の考えが言えたよ。」 「自分で問題を解いてみよう。」 	<ul style="list-style-type: none"> みんなで学ぶことの良さを感じる事ができる授業計画。 個々の感想をさらに交流することで、考えを持つこと、伝え合うことによさについて気付かせていく。

6. 研究の進め方

推進委員が中心となって研究の方向や進め方を提案し、各部の連携を図りながら実践を進めていく。

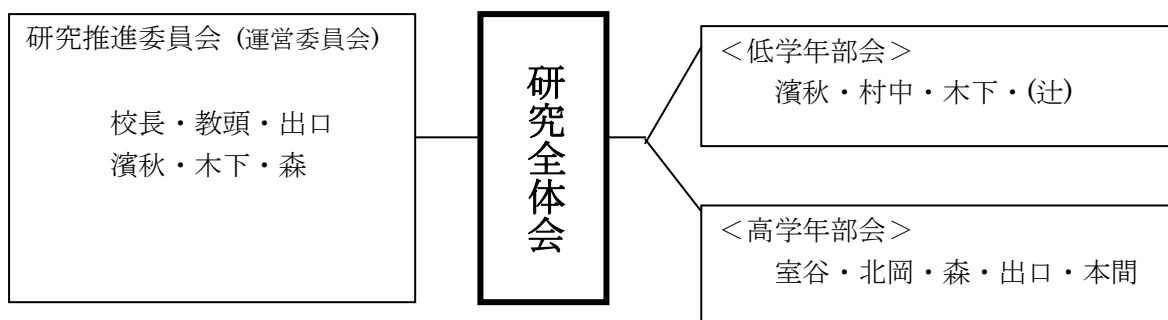
全体会

- ①全体協議の場で、研究の進め方について共通理解を図り、研究の方向や方法などを決定する。
- ②研究主題や内容について、講師を招いたりして、情報交換をしたりして学びあう。
- ③各部会の活動内容の協議や、授業研究会をする。

部会

- ①低・高の部会に分かれ、全体会・推進委員会の提案を基に、授業研究を行う。
 全体研究授業・・・各部会1回（計画訪問・要請訪問）
 指導案検討は、部会で行った後、全体会で行う。
 部会研究授業・・・全体研究授業者以外も、1単元を選び指導案を立てて授業を行う。指導案検討は部会で行う。
- ②それぞれの発達段階や児童の実態に合わせ、達成のための方策を探り、実践する。

研究組織



7. 研究のあゆみ

	推進委員会	全体会	研究授業
4月	13日	14日 今年度の研究の進め方	
5月	17日	21日 年間計画・指導案の形式	
6月	28日	8日 3年指導案検討 18日 計画訪問・3年授業整理会	18日 3年「かさ」
7月	14日	13日 4年授業整理会	13日 4年「何倍になるのかな」
8月	6日	30日 2学期以降の取り組み	
9月	9日	22日 6年指導案検討 29日 2年授業整理会	29日 2年「ふえたりへったり」
10月	25日	5日 県教育センター スクールサポート支援 6年授業整理会	5日 6年「体積」
11月	24日	17日 5年指導案検討 26日 要請訪問・5年授業整理会	26日 5年「式と計算のじゅんじょ」
12月	6日	8日 1年授業整理会 研究のまとめ・研修報告	7日 1年「ながさくらべ」
1月	17日	17日 研究の成果と課題	
2. 3月		来年度の研究に向けて	

*部会は、研究授業前に指導案検討を行ったり、研究を進めるための話し合いを行うために、全体会の前後どちらかで行ってきた

*11月26日、生徒指導主事訪問を同日開催

8. 研究の成果と今後の課題

【成果】

- ・「自分の考えを持つ」ことは、その時間の課題に向かうことからスタートする。課題を理解し、「どうすれば解けるだろう」と考えることが、「自分の考えを持つ」ことの第一歩である。そう考えた場合、どのような課題にするのか、という課題の吟味と、どのように課題と出合わせるのかという提示の工夫が重要となってくる。今年度は、この課題設定と提示の工夫について、全学年の授業研究の中で話し合いを行い、共通理解のもと、研究を進めることができた。
- ・既習を生かすことができる算数科は、既習の積み重ねの差による理解の差も、学年が上がるにつれて出やすい教科でもある。それぞれの学年、児童に合わせた支援が必要である。「主体的に学び、自分の考えを持つ場」において、課題提示の工夫、具体物の活用やペア学習による相談、個別の支援などを行ったことが、一人ひとりの学びを主体的なものにし、「自分の考え」を持とうとする意欲を高めることにつながった。また、考えをまとめる時間を十分とることで、複数の考えをまとめる児童、一つの考えをまとめる児童、考えを持とうとする児童、それぞれの学びの場を保障することができ、どの子も「自分の考えを持つ」ことができた。
- ・授業を観る四つの視点を設定したことは、教材研究の深まりと、授業改善へとつながった。
- ・ペアやグループでの話し合い活動は、自分の考えをまとめるという点でも有効であった。

【課題】

- ・1時間の算数科の授業の中で、ねらいをはっきりさせた「伝え合いの場」の設定が必要であった。自力解決・集団解決の中でのペアやグループの話し合い活動では、「自分の考え」を話すことにとどまり、同じ点や違う点を聞き合うことによる深まりのある伝え合いにまではいかなかった。それは、話す・聞く力を高めるためのスキルが不足していたことにもよると考えられる。今後は、話す力・聞く力をどのようにつけていくか、伝え合いをどのようにとらえるのか、系統表を作成し、学年でねらうところをはっきりさせて進めていきたい。
- ・単級であるために、先行授業による授業研究は行えない。授業研究を行う際、指導案検討のみでなく、模擬授業を行うことで、課題の工夫や、自力解決と集団解決の時間配分など、より実地的な検討をすることが可能となる。今年度不十分であった伝え合う力を高めることを目指し、よりはっきりとしたねらいを持って「伝え合いの場」を設定していきたい。
- ・これまで本校で取り組み大切にしてきた人間関係作りを土台とした学級作りの中で、児童の考え・発言を生かした授業展開ができるよう、更なる教材研究と授業展開の工夫を行い、授業改善につなげていきたい。